

Sun Java Enterprise System リリースノート

バージョン 2003Q4

Part No. 817-4235-10

2003 年 12 月 19 日

このリリースノートには、Sun Java™ Enterprise System 2003Q4 がリリースされた時点で入手可能な重要な情報が記載されています。既知の制限事項と問題点、技術情報、およびその他の情報が含まれています。Java Enterprise System 2003Q4 の使用を開始する前に、このリリースノートをお読みください。

このリリースノートの最新版は、Java Enterprise System マニュアルの Web サイト <http://docs.sun.com/prod/sunone?l=ja> で参照できます。ソフトウェアをインストールおよび設定する前、およびそれ以降も定期的にこの Web サイトをチェックして、最新のリリースノートとマニュアルを確認してください。

Java Enterprise System リリースノートは、次の節で構成されています。

- [リリースノート改訂履歴](#)
- [一般的なソフトウェアおよびハードウェアの要件](#)
 - [Solaris ソフトウェアグループの要件](#)
 - [Java 2 Standard Edition の要件](#)
 - [必須 OS パッチのリスト](#)
 - [Solaris 9 SPARC および Solaris 9 x86 プラットフォーム版用のパッチ](#)
 - [Solaris 8 SPARC プラットフォーム版用のパッチ](#)
 - [Sun Cluster 3.1 をインストールし使用するための必須パッチ](#)
 - [Java 2 Standard Edition 用の OS パッチ](#)
- [Java Enterprise System 2003Q4 に組み込まれているアップデート](#)
 - [アップデートの入手方法](#)
- [インストールに関する注意事項](#)
 - [インストールに関するさまざまな問題](#)
 - [Messaging Server のインストール](#)
 - [Messaging Server の設定](#)
 - [Message Queue のインストール](#)
 - [Directory Server のインストール](#)

- Web Server のインストール
- Application Server のインストール
- Application Server の設定
- Identity Server のインストール
- Portal Server のインストール
- Portal SRA に関する問題
- Sun Cluster のインストール
- ローカライズに関する問題点
- アンインストールに関する注意事項
- コンポーネント製品の互換性
 - Netscape セキュリティサービス 3.3.5 および 3.3.4 のサポート
- マニュアルの記述の訂正と追加事項
- 問題の報告とフィードバックの方法
- Sun が提供しているその他のリソース

その他のすべてのコンポーネント製品固有の情報は、各コンポーネント製品のリリースノートに記載されています。

コンポーネント製品のリリースノートは、次の場所で参照できます。

コンポーネント製品	リリースノートへのリンク
Sun ONE Directory Proxy Server 5.2	http://docs.sun.com/doc/816-6889-10?l=ja http://docs.sun.com/doc/816-6392-10 (英語版)
Sun ONE Directory Server 5.2	http://docs.sun.com/doc/816-6880-10?l=ja http://docs.sun.com/doc/816-6703-10 (英語版)
Sun ONE Identity Server 6.1	http://docs.sun.com/doc/817-3783-10?l=ja http://docs.sun.com/doc/816-6779-10 (英語版)
Sun ONE Calendar Server 6.0	http://docs.sun.com/doc/817-4615-10?l=ja http://docs.sun.com/doc/816-6715-10 (英語版)
Sun ONE Web Server 6.1	http://docs.sun.com/doc/816-6896-10?l=ja http://docs.sun.com/doc/817-1828-10 (英語版)
Sun ONE Messaging Server 6.0	http://docs.sun.com/doc/817-4622-10?l=ja http://docs.sun.com/doc/816-6736-10 (英語版)

コンポーネント製品	リリースノートへのリンク
Sun ONE Portal Server 6.1	http://docs.sun.com/doc/817-4630-10?l=ja http://docs.sun.com/doc/816-6746-10 (英語版)
Sun ONE Application Server 7 Update 1	http://docs.sun.com/doc/816-2785-10?l=ja http://docs.sun.com/doc/817-2164-10 (英語版)
Sun ONE Message Queue 3.0.1 Service Pack 2	http://docs.sun.com/doc/817-3827-10?l=ja http://docs.sun.com/doc/817-3731-10 (英語版)
Sun ONE Instant Messaging 6.1	http://docs.sun.com/doc/817-4742-10?l=ja http://docs.sun.com/doc/817-4112-10 (英語版)
Sun Cluster 3.1 および Agents	http://docs.sun.com/doc/817-1022?l=ja http://docs.sun.com/doc/816-5317 (英語版)

リリースノート改訂履歴

表 1 改訂履歴

日付	変更内容
2003年12月19日	2003Q4 Revenue Release、リビジョン1。2つの必須パッチ、4958324の回避策の改訂分を追加
2003年12月11日	2003Q4 Revenue Release
2003年9月29日	Sun Java Enterprise System 2003Q4 初期リリース (SPARC 版)

一般的なソフトウェアおよびハードウェアの要件

このリリースの Java Enterprise System に必須のソフトウェアとハードウェアは、次のとおりです。

表 2 ハードウェアおよびソフトウェアの要件

コンポーネント	Solaris の要件
動作環境	Solaris™ 8 SPARC プラットフォーム版 (Java Enterprise System に必須のパッチを含む) (Sun Cluster 3.1 リリース 05/03 は、Solaris 8 02/02 および Solaris 8 HW 05/03 (PSR 2) で実行可能になりました) Solaris 9 SPARC プラットフォーム版 Solaris 9 x86 プラットフォーム版
RAM	2.5G バイト推奨
ディスク容量	オペレーティングシステム要件のほかに 5G バイト。root パーティション (そこにインストールする場合) の最低容量としての 700M バイトを含む。および、/var 用に 250M バイト

表 3 コンポーネント製品のディスクインストール領域と RAM 要件

コンポーネント	インストール用の最小限のディスク容量と RAM 要件
Messaging Server	1G バイト (本稼働配備の場合) または 500M バイト (評価インストールの場合)、256M バイトの RAM (本稼働システムの場合) または 128M バイトの RAM (評価インストールの場合) サイトのサイズに応じ、メッセージストア、データベース設定ディレクトリ、ログファイル用の十分な容量が必要
Message Queue	8M バイトのディスク容量、128M バイトの RAM
Instant Messaging	300M バイトのディスク容量、256M バイトの RAM
Directory Server	3G バイト (10,000 ~ 250,00 エントリの本稼働配備) のディスク容量または 200M バイト (評価用配備) のディスク容量)、256M バイトの RAM
Web Server	256M バイトのディスク容量、64M バイトの RAM
Application Server	および Sun ONE Studio: 500M バイトのディスク容量、512M バイトの RAM
Portal Server、Portal Server SRA	1G バイトのディスク容量、1.2G バイトの RAM (本稼働配備の場合) または 512M バイト (評価の場合)

表 3 コンポーネント製品のディスクインストール領域と RAM 要件 (続き)

コンポーネント	インストール用の最小限のディスク容量と RAM 要件
Calendar Server	1G バイトのディスク容量 (本稼働配備の場合) または 500M バイト (評価の場合)、256M バイト～1G バイトの RAM (本稼働の場合) または 128M バイトの RAM (評価の場合)
Sun Cluster (ノード単位)	512M バイトのディスク容量 (スワップスペース用) および 20M バイト (Volume Manager 用) また、128M バイトの RAM に加え、ノードの通常要件の 10% の追加が必要

Solaris ソフトウェアグループの要件

Java Enterprise System のインストールには、少なくとも「Solaris エンドユーザーシステムサポート」ソフトウェアグループが必要です。「エンドユーザーシステムサポート」ソフトウェアグループに加え、必ず次のソフトウェアコンポーネントがシステムにインストールされている必要があります。

Zip 圧縮ライブラリ: Zip 圧縮ライブラリのパッケージ、SUNWzlib と SUNWzlibx がシステムにインストールされている必要があります。SUNWzlib パッケージは Solaris 8 の「エンドユーザー」ソフトウェアグループの一部ではないため、このパッケージを Solaris 8 システムに手動で追加することが必要な場合があります。これらのパッケージは、Solaris 8 のメディア上にあります。

Perl プログラミング言語: Perl プログラミング言語のパッケージ (Solaris 8 用の SUNWp15u および Solaris 9 の SUNWp15u と SUNWp15v) が、システムにインストールされている必要があります。初期の Solaris 8 のリリースでは「エンドユーザー」ソフトウェアグループに SUNWp15u は含まれていなかったため、このパッケージを Solaris 8 システムに手動で追加することが必要な場合があります。Perl パッケージは、Solaris のメディア上にあります。

Java 2 Standard Edition の要件

Java Enterprise System 2003Q4 は、Sun Microsystems により Java 2 Standard Edition (J2SE) 1.4.1_06 で使用できることが検証されています。Java 2 Standard Edition 1.4.x の以降のリリースは Java Enterprise System で適切に機能すると予想されますが、Java Enterprise System 2003Q4 ではまだ検証されていません。

Java Enterprise System 2003Q4 には、適切なバージョンの J2SE が組み込まれています。Java Enterprise System インストールプログラムでは、J2SE 1.3.x および 1.4.x の既存のパッケージベースのインストールをアップグレードするか、J2SE パッケージの追加インスタンスをインストールすることができます。J2SE のインストールおよびアップグレードオプションの詳細については、<http://docs.sun.com/prod/sunone?l=ja> にある『Java Enterprise System インストールガイド』を参照してください。

使用しているシステムにすでに J2SE 1.4.1_06 ランタイム環境パッケージ SUNWj3rt がインストールされていて、J2SE 1.4.1_06 開発ツールパッケージ SUNWj3dev がインストールされていない場合は、Java Enterprise System をインストールする前にこの開発ツールパッケージをインストールしてください。このパッケージには、Java Enterprise System に必要ないくつかの機能が含まれています。使用しているシステムにインストールされている J2SE のバージョンを確認する方法と、Java Enterprise System をインストールする前にシステムを準備する方法については、<http://docs.sun.com/prod/sunone?l=ja> にある『Java Enterprise System インストールガイド』を参照してください。

Sun ONE Portal Server および Sun ONE Identity Server は、これらのコンポーネント製品が IBM WebSphere Application Server および BEA WebLogic Server に配備されている場合のみ、J2SE 1.3.x をサポートします。これらの Application Server による J2SE 1.3.x のサポートの詳細については、Sun ONE Portal Server および Sun ONE Identity Server のマニュアルを参照してください。

必須 OS パッチのリスト

Solaris 8 SPARC に Java Enterprise System をインストールする前に、必須 OS パッチがインストール済みであることを確認する必要があります。これらのパッチは、パッチクラスタの形式で入手することも、<http://sunsolve.sun.com> から個別のパッチとして入手することもできます。必須 OS パッチクラスタには、パッチを正しい順序でインストールする、インストールスクリプトが含まれています。このクラスタは、新しいパッチのリビジョンのリリースに伴って、定期的に更新されます。SunSolve のサイトで「パッチ」リンクを選択し、Java Enterprise System のリンクに従って使用可能な必須 OS パッチクラスタを入手してください。

Solaris 9 SPARC および Solaris 9 x86 プラットフォーム版用のパッチ

次の SUNWlib パッチは、Java Enterprise System コンポーネントに必要なパッチです。

115754: Solaris 9 SPARC、SunOS 5.9 用 : zlib セキュリティパッチ

115755-01: Solaris 9 x86 用 : zlib セキュリティパッチ

Calendar Server 6.0 のインストール後に、次のパッチをインストールする必要があります。

116577-01 (Solaris 9 SPARC 用)

116578-01(Solaris 9 x86 用)

Java Enterprise System は Solaris 8 x86 ではサポートされていません。

Solaris 8 SPARC プラットフォーム版用のパッチ

次の表で、Java Enterprise System コンポーネントに必要な Solaris 8 SPARC 用のパッチの一覧を示します。使用している Solaris のインストールによっては、すべてのパッチが環境に適用されるわけではありません。たとえば、システムに X がインストールされていない場合、ウィンドウ関連のパッチは適用されません。同様に、システムに日本語機能のサポートがない場合は、日本語機能に固有のパッチは適用されません。

これらの各パッチの最新のバージョンを適用してください。

表 4 Solaris 8 SPARC 用の必須 OS パッチ

Solaris 8 SPARC パッチ	説明	パッチの必要なコンポーネントと最低限必要なリビジョン
108434	32 ビットの共有ライブラリ	Calendar Sever S -06 インストーラ -13 Directory Server -12 J2SE -13
108435	64 ビットの共有ライブラリ	Directory Server S -12 J2SE -13
108528	カーネルアップデート	Calendar Server -09 Directory Server -22 J2SE -24
108652	Xsun	J2SE -74
108773	IIIM および X 入出力メソッド	J2SE -18
108921	CDE 1.4: dtwm	J2SE -17
108940	Motif 1.2.7 および 2.1.1: ランタイムライブラリ	J2SE -57
108987	patchadd、patchrm	J2SE -13
108989	/usr/kernel/sys/acctctl および /usr/kernel/sys/exacctsys	Directory Server -02 J2SE -02
108993 (旧 108827)	LDAP2 クライアント、libc、 libthread、および libnsl ライブラリ	Application Server -00 Directory Server -20 MS -00 J2SE -26
109147	リンカー	Calendar Server -16 Directory Server -24 J2SE -26
109326	libresolv.so.2 および in.named	Application Server -06 Directory Server -10

表 4 Solaris 8 SPARC 用の必須 OS パッチ (続き)

Solaris 8 SPARC パッチ	説明	パッチの必要なコンポーネントと最低限必要なリビジョン
109951	jservice バッファオーバーフロー	Calendar Server -01
110380	ufssnapshots サポート、libadm	Application Server -00 Identity Server -04 インストーラ -00
110386	RBAC 機能	J2SE -03
110615	sendmail	Calendar Server -09
110934	pkgtrans、pkgadd、pkgchk、pkgmk、および libpkg.a	Calendar Server -03 Application Server Identity Server -00 インストーラ -00 Identity Server -13
111023	/kernel/fs/mntfs および /kernel/fs/sparcv9/mntfs	J2SE -02
111111	/usr/bin/nawk	J2SE -03
111308	/usr/lib/libmtmalloc.so.1	J2SE -04
111310	/usr/lib/libdhcpcagent.so.1	J2SE -01
112003	64 ビット Solaris 8 iso-1 または iso-15 のフォントセット	J2SE -03
112396	/usr/bin/fgrep	J2SE -02
112438	/kernel/drv/random	J2SE -02
112472	Lucinda Sans Thai タイプライター選択時の Font2DTest の異常終了	J2SE -01
114152	日本語 SunOS 4.x バイナリ互換性 (BCP)	108993 および SUNwjbcp (日本語 BCP 機能) が存在する場合に適用。Sun Alert 50747 を参照
112611	/usr/lib/libz.so.1	Directory Server、Web Server
116577		Calendar Server -01

Sun Cluster 3.1 をインストールし使用するための必須パッチ

Sun Cluster コンポーネント製品の OS パッチ要件は、次のパッチ情報の文書に記載されています。

- 54961: Solaris 8 ユーザー用の Sun Cluster 3.1 パッチ情報文書

- 54960: Solaris 9 ユーザー用の Sun Cluster 3.1 パッチ情報文書

これらの情報には、<http://sunsolve.sun.com> の「Search SunSolve」に「Sun Cluster 3.1」または文書番号を入力して検索することでアクセスできます。

Java 2 Standard Edition 用の OS パッチ

次のコンポーネント製品には、J2SE 推奨パッチが必要です。

- Instant Messaging
- Message Queue
- Portal Server
- Web Server

Java Enterprise System 2003Q4 に組み込まれているアップデート

Java Enterprise System 2003Q4 には、以前にリリースされたコンポーネント製品に対するアップデートが含まれています。これらのアップデートは、コンポーネント製品にあらかじめ適用済みであり、Java Enterprise System のインストール中に自動的にインストールされます。

表 5 Solaris 9 SPARC 上のコンポーネント製品に必須の OS パッチ

パッチ番号	コンポーネント製品	説明
113801-04	Sun Cluster	コア
115614-01	Directory Server	
116373-01	Directory Proxy Server	
115610-01	管理サーバー	
115342-01	共有コンポーネント	SASL
114049-07; 115926-03	共有コンポーネント	セキュリティ
114677-05	共有コンポーネント	ICU

表 6 Solaris 9x86 の必須 OS パッチ

パッチ番号	コンポーネント製品	説明
115615-01	Directory Server	
116374-01	Directory Proxy Server	
115611-01	管理サーバー	
114678-05	共有コンポーネント	ICU
115927-03	共有コンポーネント	NSPR 4.1.6、NSS 3.3.7、JSS 3.1.2.5
114050-07	共有コンポーネント	NSP 4.1.4、NSS 3.3.4.1

表 7 Solaris 8 SPARC 上のコンポーネント製品に必須の OS パッチ

パッチ番号	コンポーネント製品	説明
11488-07	Sun Cluster	Mediator
113800-04	Sun Cluster	コア
115614-01	Directory Server	
116373-01	Directory Proxy Server	
115610-01	管理サーバー	
115328-01	共有コンポーネント	SASL
115924-03	共有コンポーネント	セキュリティ
114045-02	共有コンポーネント	セキュリティ
116103-03	共有コンポーネント	ICU

アップデートの入手方法

<http://sunsolve.sun.com> にアクセスし、「パッチ」または「パッチポータル」のいずれかを選択してから、Java Enterprise System リンクをたどってください。OS パッチ要件が変更されたり、Java Enterprise System コンポーネント用のパッチが利用可能になると、SunSolve からアップデートが入手可能になります。最初は推奨パッチクラスタの形式で入手します。

インストールに関する注意事項

Java Enterprise System インストーラを使用したインストール処理に関連する情報を次に示します。

インストールに関するさまざまな問題

root 以外のユーザーによるサービスの実行 (4950028)

インストールプログラムを使って Java Enterprise System コンポーネントを設定するとき、サービスに割り当てられたデフォルトの実行時ユーザー ID は root です。この設定を受け入れる前に、各コンポーネント製品のインストールと管理のマニュアルをよく読んで、配備環境で root 以外のユーザー ID を使用する方法を確認しておくことをお勧めします。コンポーネント製品に関連するサービスの多くは、root 以外のユーザー ID を使用して操作することができます。

Identity Server と Portal Server は、両方とも、ルートが所有者でない Web Server と Application Server のインスタンスに配備できます。設定の詳細については、『Java Enterprise System インストールガイド』の「インストールの準備」を参照してください。

サマリログを見直すときに、テキストベース (CLI) のインストールモードでページのスクロールがサポートされない (4934506)

テキストベースのインストーラを使ったインストールの終了時に、「1」または「2」を選択することによって、インストールログを確認するためのオプションが提供されます。しかし、スクロールに問題があるため、サマリとログは読めません。

回避策

インストールを完了し、インストーラを終了した後で、インストールログとサマリを確認します。

Identity Server Instant Messaging Service を選択すると、自動的に不要なコンポーネントが選択される (4956976)

Identity Server Instant Messaging Service を選択すると、Identity Server の下のすべてのコンポーネントが選択されます。自動的に選択される必要があるのは、Identity Server SDK コンポーネントのみです。

回避策

同じシステムに Identity Server をインストールしたくない場合は、Identity Server SDK 以外の Identity Server コンポーネントの選択を手動で解除してください。

SUNWj3rt のみがすでに存在しているとき、SUNWj3dev がインストーラによってインストールされない (4947605)

システムに SUNWj3rt のみがインストールされていて、このバージョンの Java 2 Standard Edition (J2SE) に Java Enterprise System との互換性がある場合、インストールプログラムは、Java Enterprise System に必要な付属の J2SE 開発パッケージをインストールしません。システムにこのパッケージがない場合、いくつかのコンポーネント製品の設定と操作は失敗します。

回避策

Java Enterprise System をインストールする前に、使用している J2SE のインストールに互換性があるかどうかを確認します。互換性があり、SUNWj3dev パッケージが存在しない場合は、このパッケージに対応するバージョンを入手し、Java Enterprise System をインストールする前にシステムにインストールしてください。J2SE サポートの詳細については、『Java Enterprise System インストールガイド』を参照してください。

対話式インストールモードで、フィードバックメッセージは表示されずに長い遅延がある (4955348)

対話式インストールモードのいくつかのパネルや画面で、あるパネルや画面から次のパネルや画面に移動するときに遅延が起きます。インストールプログラムがアクティブであり正常に作動していることを示すフィードバックは表示されません。遅延が予想される特定の状況は次のとおりです。

- 「ようこそ」パネル / 画面から「ライセンス契約」パネル / 画面の表示
- 「言語サポート」パネル / 画面から「コンポーネントの選択」パネル / 画面 (インストールプログラムは、「コンポーネントの選択」パネル / 画面を表示する前に、現在インストールされているコンポーネント製品を判別します)
- 「最小構成」オプションが選択されているときの、「設定タイプ」パネル / 画面から「インストール準備完了」パネル / 画面
- 「カスタム構成」オプションが選択されているときの、最後の設定パネル / 画面から「インストール準備完了」パネル / 画面

回避策

インストールプログラムがこれらの特定の状況に応答するのを待ってください。

サイレントインストーラでは、コンポーネント製品の構成の問題を事前に報告しません。

サイレントインストールを実行した後、ログ (var/sadm/install/logs) でエラーをチェックしてください。サイレントインストーラは、必ずしもコンポーネント製品の構成エラーのすべてを見つけるわけではなく、エラーにフラグを付けずに終了します。

インストーラで共有コンポーネントをアップグレードする前に処理が停止する必要がある (4918674)

インストールプログラムで共有コンポーネントをアップデートする前に、これらのコンポーネントを使用しているすべての処理を停止することをお勧めします。インストールプログラムで共有コンポーネントをアップデート可能にし、インストールプログラムを終了した後、システムを再起動することをお勧めします。

コンソールモードで、共有コンポーネントのインストールまたはアップグレード中に進捗バーが表示されません (4943140)

次の画面からのインストールを選択すると、インストールプログラムが共有コンポーネントのインストールまたはアップグレードのいずれかを実行している間、プログラムは逐次進捗状況を表示しません。このフェーズは完了に少なくとも数分かかることがあるため (J2SE パッケージのインストールまたはアップグレードの場合など)、インストールプログラムが止まったように見える場合があります。

インストールの準備が完了

1. インストール
2. やり直し
3. インストールの終了

どれを実行しますか [1] {"<" 戻る, "!" 終了}? 1

回避策

インストーラプログラムが共有コンポーネントのインストールまたはアップグレードを完了するのを待ってください。この段階が完了すると、インストーラプログラムによりコンポーネント製品のインストールの進捗状況が表示されます。

インストーラが部分的な JDK 1.4.1_06 インストールを検出するが修正しない (4935666)

回避策

インストールを開始する前に、1.4.1_06 の JDK インストールが完了していることを確認してください。最低でも、SUNWj3dev または SUNWj3rt がシステム上に存在することを確認してください。これらのパッケージがないと、インストールは失敗します。

インストーラが部分的にインストールされたコンポーネント製品パッケージを検出しない (4918824)

詳細については、<http://docs.sun.com/prod/sunone?l=ja> にある『Java Enterprise System インストールガイド』を参照してください。

Solaris パッケージのディスク容量のチェックで間違ったファイルシステムをチェックする (4747235)

この動作は、SetupSDK 5.5 RTM を使った Application Server のパッケージベースのインストールの構築中に確認されました。デフォルトの再配置場所は、/var, /etc と /opt です。/export などの別のマウントポイントを選択すると、ディスクチェックメカニズムはその場所をチェックしません。引き続きデフォルトの場所がチェックされます。このため、ディスクチェックによって報告されるディスク容量情報が誤ったものになります。

回避策

1 つのパーティション上に Java Enterprise System 製品群全体をインストールする場合は、そのパーティションに最低 80M バイトが必要です。インストールを試行する前に、利用可能なディスク容量を確認してください。

インストーラが SUNWzlib で依存性を報告しない (4918976)

回避策

32 ビットおよび 64 ビットの SPARC インストールの場合、pkgadd を使用して、インストーラを実行する前に SUNWzlib および SUNWzlibx パッケージを手動で追加します。

インストーラの「ようこそページ」で「次へ」のボタンが表示されないことがある (4922208)

この問題はまれにしか発生しません。

回避策

「取消し」をクリックしてインストーラを終了します。その後、インストーラを再起動します。

「システム要件の確認中」パネルで「次へ」ボタンを使用できない (4927699)

ディスク容量が不十分な場合、「次へ」ボタンは使用できません。「インストーラディレクトリ」パネルに戻って変更を加えると、もう一度先に進むことができなくなります。

回避策

インストーラを再起動してください。

「インストーラディレクトリ」パネルで本来使用できない空白文字とファイル名が使用できる (4933567)

インストーラディレクトリフィールドで、ディレクトリパスまたはファイルへの絶対パスの間に空白文字があると、インストーラはパッケージ検証の段階で停止します。

回避策

インストーラディレクトリフィールドに空白文字を入れないでください。ディレクトリフィールドにファイル名を入力しないでください。

コンポーネント選択パネルで管理サーバーの名前が正しくない (4933567)

「管理サービス」の下に、「Sun ONE Administration Server 5.2」ではなく「Sun ONE Administration Server and Console」が表示されるはずですが。

十分なディスク容量がないと Directory Server と管理サーバーの設定が失敗する (4932843)

Directory Server と管理サーバーをインストーラモード (テキストベース、グラフィカル、またはサイレント) のいずれかを使用してインストールするときに、インストール先のパーティションのディスク容量が不十分だと、インストールが失敗することがあります。この問題は、コンポーネント製品がそれぞれのインストール後の設定に必要とする追加のディスク容量をインストーラが考慮しないために発生します。「Solaris パッケージのディスク容量のチェックで間違ったファイルシステムをチェックする (4747235)」も参照してください。

回避策

インストールを実行する前に、追加のディスク容量が十分であることを、手動で確認してください。

コンポーネント製品のインストールが失敗したという、誤解しやすいメッセージが表示される (4929897)

コンポーネント製品のうちの1つのインストールが失敗すると、その後に残りの製品のインストールを試みなかったにもかかわらず、インストールサマリにはすべてのコンポーネント製品のインストールが失敗したと表示されます。

回避策

失敗したインストールの正確な情報を取得するためには、詳細なインストールログを確認してください。pkgadd の出力には、どのコンポーネントのインストールが失敗したか、またその理由が示されています。ログファイルは /var/sadm/install/logs に格納されています。

詳細なログファイルには、ファイル名の中に *B* が含まれています。

インストーラによって SUNWj3dmx パッケージがアップグレードされない (4944839)

パッケージ SUNWj3dmx がシステム上の /usr/j2se の下にインストールされていて、/usr/j2se の下にインストールするようにインストールプログラムが J2SE のアップグレードを選択している場合、SUNWj3dmx パッケージはインストーラではアップグレードされません。

回避策

新しいバージョンの SUNWj3dmx を手動でインストールします。最初に、pkgrm を使用してこのパッケージの既存のコピーを削除します。次に、新しいバージョンを入手し、次の指示に従ってインストールします。

SUNWj3dmx パッケージは <http://java.sun.com/j2se/1.4.1/download.html> で入手できます。

インストーラが JDK をアップグレードするとき、ユーザーは、/usr/j2se の既存の JDK をアップグレードするか、/usr/jdk/.j2se1.4.1_06 に新しいバージョンの JDK をインストールするかを選択するよう求められます。

SUNWj3dmx パッケージは <http://java.sun.com/j2se/1.4.1/download.html> で入手できます。

SUNWj3 を /usr/j2se にインストールするには、次のように入力します。

```
# pkgadd -d . SUNWj3dmx
```

SUNWj3 を /usr/jdk/.j2se1.4.1_06 にインストールするには、次のように入力します。

```
# pkgadd -d -r ./response.txt SUNWj3dmx.
```

response.txt の内容を次のように記述します。

```
BASEDIR=/usr/jdk/.j2se1.4.1_06
```

Application Server と Identity Server を並行してインストールすると部分的に失敗する (4946125)

Directory Server をインストールした後で、ステートファイルを作成して Application Server と Identity Server を同時に 2 台のマシンにインストールすると、1 つの amconsole だけが設定され、もう 1 台のほうでは利用可能になりません。

回避策

なし

デフォルト以外のディレクトリにある JDK のバージョンをアップグレードすることができない (4946938)

以前のバージョンの JDK (1.4.1_06 以前) が /export や /opt などのデフォルト以外のディレクトリにインストールされている場合、インストーラはその JDK パッケージを検出し、それを「互換性のない共有コンポーネント」パネルに表示します。新しい JDK パッケージをデフォルト以外のディレクトリにインストールするという選択肢はありません。新しい JDK パッケージ (パッケージ 1.4.1_06) は、自動的に /usr/jdk/.j2se1.4.1_06 にインストールされます。

JDK 1.4.1_06 がすでにデフォルト以外のディレクトリにインストールされていて、そのままにしたい場合は、インストーラを実行する前に、/usr/jdk に次のようにシンボリックリンクを作成します。

```
# cd /usr/jdk
```

```
# ln -s (既存の JDK ディレクトリのパス) /usr/jdk/entsys-j2se
```

不正なコマンド構文を使用したときにサイレントインストーラが例外をスローする (4940314)

サイレントモードのインストールを実行しようとしたときに、`-noconsole` オプションを指定することを忘れて、インストーラは例外をスローします。たとえば、次のコマンドを使ってサイレントファイルを生成します。

```
# ./installer -no -saveState /tmp/silent.file
```

その後、コンポーネント製品をインストールするファイルを使用します。

```
# ./installer -state /tmp/silent.file
```

このようにするとサイレントインストールは失敗します。

回避策

必ず、`-noconsole` オプションを次のように指定してください。

```
# ./installer -no -saveState /tmp/silent.file
# ./installer -noconsole -state /tmp/silent.file
```

Messaging Server のインストール

Messaging Server と Directory Server を異なるマシン上にインストールする際の問題

回避策

1. Messaging Server と Directory Server を最初のマシンにインストールします。
2. Messaging Server と Directory Server を 2 台目のマシンにインストールします。
3. 2 台目のマシンの管理サーバーを、適切な Directory Server を指すように設定します。

```
# /usr/sbin/mpsadmserver configure
```

4. 2 台目のマシンで、Messaging Server の `configure` スクリプトを実行します。

高可用性環境で Messaging Server にアクセスできない (4946314)

たとえば、HTTP 経由で Messaging Server に接続しようとする、「ファイルが見つからない」というエラーが発生します。この問題は、インストーラが `local.hostname` および `local.servername` の 2 つの設定パラメータを設定しないということによって発生します。

回避策

Messaging Server の設定パラメータ `local.hostname` および `local.servername` は、メールホストのホスト名を定義します。高可用性環境では、Directory Server と管理サーバーが Messaging Server で使用するものとは別の論理ホストを使用するように設定されている場合、メールユーザーがログインすることができません。そのため、管理サーバーと Directory Server のパラメータを、Messaging Server の LOGICAL HOSTNAME の値と同じ値に変更する必要があります。

mailsrv になります。 `local.hostname` と `local.servername` を LOGICAL HOSTNAME を指すように設定します。

```
# cd server_root/sbin
# ./configutil -o local.hostname -v (メッセージングサーバーの論理ホスト名)
# ./configutil -o local.servername -v (メッセージングサーバーの論理ホスト名)
```

スキーマ 2 のサポートを含む Messaging Server (および Directory Server) の使用 (4916028)

スキーマ 2 のサポートを含む Messaging Server を使用するためには、Identity Server と Directory Server をインストールする必要があります。現在のところ、Directory Server にスキーマ 2 のサポートを取り込むには、Identity Server をインストールする方法しかありません。

Identity Server は、Web コンテナとして機能するためには Web Server (または Application Server) も必要とします。Identity Server が Directory Server と共にインストールされていない場合、Messaging Server はスキーマ 1 のみを使用します。Java Enterprise System のインストール中はスキーマ 1 または 2 を選択できるオプションがないため、Identity Server をインストールして Directory Server をアップデートする必要があります。

Messaging Server の設定

Messaging Server の設定中に管理サーバーの設定エラーが表示される (4915459)

Directory Server が 1 つのノード上で起動し実行中で、管理サーバーと Messaging Server が別のノード上にインストーラ GUI を使ってインストールされている場合、configure を使用して Messaging Server を設定しようとすると、次のような管理サーバー設定エラーが表示されます。

```
Unable to read the AdminServer ServerRoot Configuration file
/etc/mps/admin/v5.2/shared/config/serverroot.conf.
Is the Admin Server configured properly ?
```

回避策

Messaging Server を設定する前に、次のように管理サーバー設定スクリプトを実行します。

```
# /usr/sbin/mpsadminserver configure &
```

Message Queue のインストール

Message Queue がインストールされているマシンに、Message Queue 3.0 以降のバージョンがすでにインストールされている場合、インストーラの「製品の選択」パネルの Message Queue の項目がグレー表示されます。Message Queue のバージョンに互換性がある場合は、Message Queue を再インストールする必要はありません (Enterprise Edition のユーザーライセンスをアップグレードしたり、Enterprise Edition バージョンをインストールする場合でない限り)。

回避策

Message Queue プラットフォーム版から Message Queue Enterprise Edition にアップグレードするには、プラットフォーム版をアンインストールしてから、Enterprise Edition の完全インストールを実行します。

Directory Server のインストール

管理サーバーのインストール中に Directory Server のルートディレクトリが検証されない (4938089)

Directory Server をインストールした後で管理サーバーをインストールすると、Directory Server 用に選択したルートディレクトリと管理サーバー用に選択したルートディレクトリが同じであるかが検証されません。2つの異なるディレクトリを入力すると、インストーラは警告なしでインストールを続行し、管理サーバーの設定は失敗します。

回避策

Directory Server と管理サーバー用に、必ず同じルートディレクトリを入力してください。

「bootstrap-config」エラーのため、リポート後に Directory Server が失敗する (4938519)

この問題は Java Enterprise System と Solaris の統合インストールを実行した場合に発生することに注意してください。Solaris をインストールした後で Java Enterprise System を別にインストールした場合は、Directory Server は適切に起動します。

回避策

1. `/var/opt/mps/serverroot/spald-host name/config/dse.ldif` を編集します。
`nsslapd-maxdescriptors` の値を 65536 から 1550 に変更します。

または

2. `start-slapd` を実行する前に、同じシェルで次のように入力します。

```
# ulimit -n 65536
```

次に、`start-slapd` を実行します。

```
# ./start-slapd
```

2 番目の回避策は、記述子の最大値がこのように大きな値になる場合は、本稼働システムにはお勧めできません。2 番目の回避策は、妥当性検査のテストに適しています。

コンソールベースのインストーラが実際のデータを含むディレクトリを生成するオプションを提供しない (4939154)

コンソールベースのインストーラを使用すると、サンプルデータを含むディレクトリが生成されます。グラフィカルインストーラには、サンプルデータと実際のデータを選択できるように表示されます。

回避策

オプション 1 の「サンプル組織構造の読み込み」を選択します。Directory Server のインストールと設定が終了した後、Directory Server ユーティリティの `db2ldif` を実行します。サンプルデータを `dc=example,dc=com` にエクスポートします。次に、サンプルデータを削除し、Directory Server にインポートし直します。

詳細については、<http://docs.sun.com/source/816-6699-10/scripts.html#14679> を参照してください。

Directory Server のリソースタイプを登録できない (4921882)

この問題は、Directory Server とクラスタリングのみで発生します。

回避策

`scrgadm` を実行する前に、`/opt` をパスに追加して、`SUNW.dsldap` ファイルを編集し、`RT_BASEDIR` を変更します。

管理ユーザーで、コンソールから新しいインスタンスを作成できない

回避策

`rootdn` を使用して、Directory Server のインスタンスを作成します。通常これは、`cn=Directory Manager` です。

Web Server のインストール

Web Server インストールディレクトリが空ではない場合 (以前にインストールしたバージョンのファイルが格納されている場合)、Web Server のインストールは失敗する

回避策

設定ファイルをすべてバックアップします。次に、Java Enterprise System インストーラを使用して Web Server をインストールする前に、インストールディレクトリを削除します。

80 がすでに使用中の場合、「User and group ID adds fail」という不要なエラーが表示される (4923647)

システムですでに `uid` および `gid` の値に 80 が使用されていて、それらに「`webservd`」の値が割り当てられていない場合、`SUNWwbsvr` のパッケージ追加によりエラーメッセージが発行されますが、Web Server のインストールは正常に進行します。

回避策

ユーザー ID とグループ ID の値として「webservd」を使用する予定がない場合、このエラーメッセージは無視してかまいません。Web Server インスタンスに「webservd」の値を使用する予定がある場合は、値 80 との矛盾を修正するか、別の ID 値を使って「webservd」のユーザー ID およびグループ ID を作成することができます。

Web Server の docroot を変更すると、amconsole とポータル Web モジュールが失われる (4949922)

Web Server の DocRoot を変更してから復元すると、amconsole とポータルにアクセスできなくなります。たとえば、Web Server の DocRoot ディレクトリが Instant Messaging の DocRoot を指すように変更し (Instant Messaging の Java Web Start を使用するため)、次に DocRoot をそのデフォルト値に戻すと、/amconsole および /portal モジュールが消去されます。

回避策

Web Server に初めてログオンするときに、「Apply」をクリックして server.xml ファイルをバックアップします。「Instant Messaging のリンクが Web Server のホームページに表示されない (4950828)」も参照してください。

Instant Messaging のリンクが Web Server のホームページに表示されない (4950828)

Instant Messaging、Identity Server、および Web Server のすべてが doc root ディレクトリとして /opt/SUNWiim/html を使ってインストールされている場合、Java Web Start または Java プラグインのリンクは Web Server のホームページに表示されません。

回避策

Web Server DocRoot は /opt/SUNWiim/html に設定されており、コンソールにはこのように表示されます。ディレクトリを /tmp に変更し、「Apply」を押します。

次に、ディレクトリを /opt/SUNWiim/html に戻して、「Apply」を押します。そうすると、Instant Messaging ページへのリンクは、Web Server ホームページにあるはずですが。

Korn シェルを使用しているときに .env ファイルに「set -o noclobber」があると、エラーが発生しインストールが停止する (4912254)

Web Server のインストールが正常に完了したにもかかわらず、「.../setup/configure[1369]:/work/ws61/setup/setup.inf:file already exists」というエラーが表示されて設定が失敗することがあります。

回避策

使用している環境から set -o noclobber 設定を削除します。Web Server の設定プログラムである web_server_install_dir/setup/configure を実行して、Web Server を設定します。設定プログラムによって、管理サーバーおよびデフォルトインスタンスを含む、実行時設定が行われます。

Web server 起動時に「locale-charset-info」という警告メッセージが表示される (4931128)

起動時に、次のような「locale-charset-info」警告メッセージが表示されます。

```
warning: WEB6100: locale-charset-info is deprecated, please use
parameter-encoding
```

```
info: WEB0100: Loading web module in virtual server  
[https-tombombadil.red.ipplanet.com] at [/amcom]
```

このメッセージは、存在しない問題を示しています。このメッセージは無視してください。

Web Server の設定

ユーザーがログインした後、管理コンソールにエラーメッセージが表示される (4756206)

Identity Server をインストールした後で Web Server 管理コンソールにログインすると、次のメッセージが表示されることがあります。

"Warning manual edits not loaded. Some configuration files have been edited by hand. Use the Apply button on the upper right side of the screen to load the latest configuration files."

このメッセージが表示された場合は、「Apply」をクリックして変更内容を適用します。Web Server を再起動する必要はありません。ただし、「Apply」ボタンをクリックしないで処理を続行すると、Identity Server の設定の変更は失われます。Identity Server の設定が失われた場合は、Web Server の一次設定ディレクトリからそのバックアップ設定ディレクトリに、server.xml を次のようにコピーします。

```
# cp /opt/SUNWwbsvr/https-hostName.domain/config/server.xml  
/opt/SUNWwbsvr/https-hostName.domain/conf_bk
```

そうすると、Web Server はバックアップ設定ディレクトリから server.xml を読み取ります。

Application Server のインストール

Message Queue Broker でのポートの使用が重複するために Application Server の起動が失敗する (4939399)
Application Server の設定時に、Message Queue Broker (Application Server 管理 UI の JMS サービスとしても知られている) に未使用のポート番号が割り当てられます。Application Server のインスタンスが起動する前に別のサービスがこのポートを占有していると、Application Server のインスタンスは起動に失敗します。

回避策

未使用のポート番号を判別し、Application Server 管理 UI で JMS サービスのポート番号を変更します。JMS サービスのポート番号を具体的に指定してください。

インストーラがバンドルされているパッケージを検出しない (4928796)

コンポーネント製品の選択中、インストーラは Application Server のバンドルパッケージの存在を無視します。インストーラがチェックするのは、アンバンドルパッケージのみです。

回避策

複数の Application Server がインストールされないようにするには、コンポーネントの選択パネルで Application Server のアンバンドルコンポーネントの選択を解除してください。

Application Server の設定

Perl パッケージがない場合に設定が失敗する (4951380)

回避策

Application Server と Directory Server を設定する前に、SUNWpl5* パッケージ (Perl パッケージ) がインストールされていることを確認してください。Perl パッケージは、Solaris 8 と Solaris 9 のメディア上にあります。pkgadd を使用して、パッケージを追加してください。

インストーラが、ユーザーが設定パネルで入力したホスト名を認識しない (4931514)

インストーラは、Application Server の「サーバー名」の入力を要求します。ただし、テキストフィールドに何を入力しても、インストーラはマシンの実際のホスト名を使用します。

回避策

サーバー名がサーバーのホスト名と異なる場合は、スーパーユーザーになり、サーバールートで次のように入力します。

```
# find . -type f -exec grep -l $HOSTNAME {} ¥ ;
```

次に、ファイルを適切に変更します。

Identity Server のインストール

デフォルトの Application Server の値が必ずしも正しくないことがある (4943674)

Identity Server の設定の際、Application Server のポート値などの設定が正しいことを確認してください。最初に表示される値は、必ずしも正しくない場合があります。

Application Server が Identity Server のコンテナとして自動的に選択される (4933352)

Identity Server をインストールする場合、Application Server または Web Server のいずれかをコンテナとして指定することができます。ただし、Web Server をコンテナとして選択した場合でも、インストーラは Application Server のパス情報を入力するよう要求します。

回避策

Identity Server を Web Server 上にインストールする場合は、次のインストールパネルに進む前に、「Application Server と Message Queue」の選択を解除してください。

インストール後に amconsole エラーが生成された (4928865)*回避策*

user と group のそれぞれに、sunone と sunone のように同じ値を設定してください。あるいは、Web サーバーの実行時 user および group として、root および other を指定してください。

Weblogic インスタンスを実行していない場合に pkgadd が失敗する (4918174)*回避策*

インストーラを起動する前に、BEA Weblogic が起動していて実行中であることを確認してください。

US 以外のトップレベルドメイン名が認識されない (4928869)

Identity Server または Portal Server と共に Internet Explorer を使用している場合に、Cookie ドメイン名が選択されていると、ブラウザは一部のトップレベルドメイン名を認識しません。Internet Explorer で www.example.com の Cookie ドメインとして example.com を選択しますが、www.example.co.jp の Cookie ドメインとして co.jp が誤って選択されることがあります。

回避策

Identity Server と Portal Server のブラウザとして、Netscape を使用してください。

ドメイン名の適切な Cookie 値を手動で設定してください。

Application Server および Web Server と共にインストールする場合、セキュリティ保護された配備をインストールできない (4932659)

Web コンテナ (Application Server および Web Server) と Identity Server を同じセッションでインストールする場合、「ポートがセキュアかどうか」オプションを選択することはできません。

回避策

Identity Server とその Web コンテナを同じセッションでインストールしている場合は、セキュリティ保護された配備のオプションを選択しないでください。

Portal Server のインストール

IBM WebSphere の最小モードインストールが行われたい (4946769)

IBM WebSphere コンテナの「最小モードインストール」を選択した場合も、強制的にカスタム (完全) インストールが実行されます。

回避策

サードパーティの Web コンテナに対して Portal Server を設定する場合は、カスタムモードの設定を使用してください。

Application Server の依存性に関する不要な警告メッセージが表示される (4930028)

Portal Server のインストール中に、Portal Server が Application Server に依存し、Application Server をインストールする必要があるという警告メッセージが表示されます。この警告メッセージは、Application Server がすでに正常にインストールされている場合でも表示されます。Application Server が実際に正常にインストールされている場合は、この警告を無視して、Portal Server のインストールを続行してください。

Portal Server のインストール中に Web Server のインスタンスが検証されない (4934364)

Portal Server パネルで Web Server インスタンスを入力する場合、入力内容の妥当性はチェックされません。設定が実際には成功していない場合でも、インストールと設定が成功したと表示されます。

回避策

Portal Server をアンインストールしてください。Portal Server を再インストールして設定情報を入力する際に、Web Server インスタンス名が正確であることを確認してください。

検索が中断されました：データベース JNI ライブラリが見つかりませんでした (4932661)

回避策

server.xml ファイルを編集してください。native-library-path-prefix 属性の値として、base-dir/SUNWps/lib ディレクトリを割り当てます。たとえば、次のように入力します。

```
native-library-path-prefix="./opt/SUNWps/lib
```

BEA Web Logic 上のインストールで実行中の Portal インスタンスをインストーラが確認しない (4918174)

回避策

インストーラで BEA WebLogic への Portal のインストールを開始する前に、BEA WebLogic インスタンスが実行中であることを確認してください。

Portal SRA に関する問題

不要なコンポーネントを含まない Portal Gateway のインストール

Portal Gateway のインストールを選択すると、その他のいくつかのコンポーネント製品が自動的に選択されます。次の 2 つのサブコンポーネント以外はすべて、選択を解除してください。

- Identity Server SDK
- Portal Server Secure Remote Access 6.2 ゲートウェイ

SRA Core 設定がマルチセッションでカスタマイズしたディレクトリのインストールで失敗する (4940974)

マルチセッションのインストール中は、カスタムディレクトリを選択すると SRA Core コンポーネントの設定が失敗します。

回避策

Portal Server と同じ場所に Secure Remote Access Core をインストールする必要があります。

Sun Cluster のインストール

クラスタをシャットダウンしてリブートした後、クライアントが接続できない (4941371)

回避策

クラスタをリブートした後で、SUNW.SharedAddress リソースを別のクラスタノードに切り替えます。別の方法として、同じノードの SUNW.SharedAddress リソースを停止してから、再起動します。後者の方法を実行する場合は、SUNW.SharedAddress リソースを停止する前に、スケラブルなサービスリソースを停止する必要があります。

以前のバージョンの Directory Server の Sun Cluster のデータサービス

Java Enterprise System 1 には、Sun ONE Directory Server 5.2 用の Sun Cluster データサービスが含まれています。Sun ONE Directory Server 5.0 か 5.1、または Netscape HTTP、バージョン 4.1.6 用の Sun Cluster データサービスが必要な場合は、Sun Cluster 3.1 データサービス 10/03 リリースで入手できます。このリリースを入手する場合は、ご購入先のカスタマサポートの担当者に連絡してください。

Oracle Parallel Server/Real Application Clusters 用の Sun Cluster データサービスは、Sun Cluster 3.1 CD からはインストールされない

代わりに、Java Enterprise System 1 Accessory CD、Volume 3 からインストールされます。また、このデータサービスはエージェント CD からはインストールされません。代わりに、Java Enterprise System 1 Accessory CD、Volume 3 からインストールされます。

scinstall -r を使用するとインストーラはアンインストールを認識しない (4915796/4919514)

Sun Cluster を scinstall -r を使用してアンインストールしてから再インストールすると、Java Enterprise System インストーラは、Sun Cluster がインストールされたままであると見なします。さらに、インストール中に一部のパッケージしか削除されません。

回避策

Sun Cluster を scinstall -r を使用してアンインストールした後で、Java Enterprise System アンインストールラを使用して Sun Cluster をアンインストールする必要があります。アンインストールラを実行し、削除する Sun Cluster コンポーネントを選択します。

scinstall を使用した Sun Cluster 3.1 データサービスのアップグレードが部分的に失敗する (4932006)

Sun Cluster データサービスをアップグレードする場合、SUNWCscdab パッケージが「見つかりません」というメッセージが表示されます。アップグレードは成功しますが、データサービスのマニュアルは更新されません。

回避策

マニュアルを更新するには、pkgadd を使用して、Java Enterprise System Accessory Pack CD から SUNWscdab パッケージを追加してください。

使用ディスク領域として示される値が正しくない (4929350)

Sun Cluster Agent のみをインストールする場合、インストーラ画面に表示される使用ディスク領域が正しくありません。

回避策

なし

コンポーネント製品用の Sun Cluster Agent を Java Enterprise System の外部にインストールする場合、インストーラが Sun Cluster Agent を選択できない (4916722)

回避策

Sun Cluster Agent のパッケージを、Java Enterprise System CD にある pkgadd を使用してインストールしてください。

SunPlex Manager インストールモジュールがサポートされていない (4928710)

回避策

Java Enterprise System インストーラを使用して、Sun Cluster の最小インストールを実行します。その後、scinstall を使用してインストールと設定を完了します。詳細については

<http://docs.sun.com/coll/572.12> の Sun Cluster Software Collection を参照してください。

Sun Cluster が Java Enterprise System インストーラを使ってインストールされていない場合、Sun Cluster Agent をインストールできない (4937337)

Sun Cluster Jumpstart を使用して Sun Cluster をインストールした後で Sun Cluster Agent をインストールしようとすると、製品の依存チェックでエラーが表示されます。

回避策

scinstall を使用して、次のエージェントをインストールします。

SUNWschtt SUNWjschtt (Web Server の場合)

SUNWscslas SUNWjscsslas (Application Server の場合)

SUNWscslmq SUNWjscsslmq (Message Queue の場合)

pkgadd を使用して、次のエージェントをインストールします。

SUNWscics (Calendar Server の場合)

SUNWdsha (Directory Server の場合)

SUNWasha (管理サーバーの場合)

SUNWscims (Messaging Server の場合)

高可用性 Web Server が、リブート後にすべてのノードでは起動しない (4935318)

この問題は、Sun Cluster と共に Web Server をインストール中に、「システムが再起動すると自動的に Web サーバーを起動します」オプションを選択すると発生します。

回避策

ノードのリブート時に Web Server を起動する /etc/rc* スクリプトを削除します。

Calendar Server がインストールされていない場合、カレンダー用の Sun Cluster Agent が失敗する (4923738)

SUNWasha および SUNWdsha パッケージに組み込まれている、Calendar Server の新しいバージョンのエージェント (Java Enterprise System と互換性があるもの) がインストールされている場合、それらはインストーラでは検出されません。このエージェント (Java Enterprise System 互換バージョン) は、製品の選択パネルでグレー表示されていないため、インストール可能に見えます。エージェントをインストールするよう選択すると、インストールは失敗します。

回避策

pkgrm を使用して、すべての既存の Sun Cluster Agent のパッケージを削除します。その後、インストールを再開します。

システム上にすでに存在している場合、インストーラが追加の Sun Cluster Agent をインストールできない (4945651)

Java Enterprise System インストーラを実行する前に Sun Cluster Agent がインストールされていると、インストーラで追加の Agent をインストールできません。

回避策

追加の Sun Cluster Agent を、pkgadd を使用してインストールします。

ローカライズに関する問題点

テキストベースのインストーラで、ローカライズされたメッセージの一部が誤った位置で折り返される (4938764)

回避策

なし

server1.xml のロケールエントリが常に en_US にある (4855688)

回避策

/var/opt/SUNWappserver7/domains/domain1/admin-server/config/server.xml を編集します。「en_US」を適切なロケール値に変更します。

検索プロバイダフィールドが間違った場所にインストールされた (4935315)

SUNW[d|e|f|k|c|h|j]pps (検索プロバイダ) のファイルは、ベースパッケージとは別のディレクトリにインストールされます。

回避策

次のように /var/sadm/prod/entsys/desktop を /etc/opt/SUNWps にコピーします。

```
# cd /var/sadm/prod/entsys
# tar cvf - desktop | (cd /etc/opt/SUNWps; tar xvf -)
```

Directory Server コンソールに分割されたマルチバイトのルートサフィックス名が表示される (4929282)
マルチバイトのルートサフィックス名を使用することはできません。

回避策

ASCII のルートサフィックス名を使用してください。

Calendar Server がすべての言語でインストールされている場合、Calendar Server アンインストールログファイルにエラーがある (4937876)

回避策

なし

Identity Server で作成した英語以外のユーザーに英語版の Calendar Server が表示される (4930679)

回避策

なし

アンインストールに関する注意事項

テキストベース (CLI) モードのアンインストーラで、アンストールするコンポーネント製品を複数選択、または選択解除できない (4958324)

Java Enterprise System アンインストーラをテキストベース (CLI) モードで実行すると、アンインストーラは自動的に、システム上にあるすべての Java Enterprise System コンポーネントの削除を選択します。

- 削除する追加コンポーネントを選択するには

アンインストールするコンポーネントに対応する番号を入力し、**Return** を押します。たとえば、**Web Server** のアンインストールを選択するには、**1** と入力します。

アンインストーラでは、アンインストールするコンポーネントを複数選択することはできません。アンインストールする追加コンポーネントごとに操作を繰り返す必要があります。

- 削除する追加コンポーネントの選択を解除するには

アンインストールするよう選択したコンポーネントごとに、対応する番号を入力して **Return** を押します。

たとえば、**1** は **Web Server** に対応する番号です。アンインストールの選択を解除するには **1** と入力して **Return** を押します。

アンインストーラでは、複数のコンポーネントを選択解除することはできません。アンインストールの選択を解除する追加コンポーネントごとに操作を繰り返す必要があります。

テキストベース (CLI) モードのアンインストーラで、複数のコンポーネント製品のアンインストールが混同する (4958324)

Java Enterprise System コンポーネント製品を複数セッションでインストールする場合、アンインストールする製品の選択を、テキストベースのインストーラの「製品の選択」リストで複数回行う必要があります。選択中にコンマで区切られたリストを指定することはできません。

グラフィカルアンインストールにはこの制限はありません。

たとえば、最初のインストールセッションで製品 A、2 回目のインストールセッションで製品 B、3 回目のインストールセッションで製品 C をインストールしたとします。アンインストーラをテキストベース (CLI) モードで実行すると、「製品の選択」リストでは、最後にインストールした製品 C のみが選択されています。A と B は選択されません。

A と B を選択するには、次のループで A (または B) を選択し、その後その次のループで B (または A) を選択する必要があります。

/var/sadm/prod/entsys にアンインストールスクリプトが含まれていない (4954478)

回避策

pkgadd を使用して、メディアキットから SUNWentsys-uninstall (および、すべての言語がインストールされている場合は SUNWentsys110n-uninstall) をインストールします。

Portal Server のアンインストール後に、Application Server からの Web アプリケーションが配備されたままになる (4943052)

Portal Server をアンインストールした後、Application Server を再起動することはできません。この問題は、Portal Server のアンインストール中に管理パスワードが設定スクリプトに渡されないことによって発生します。

回避策

Web Server の管理コンソールを使用して、Portal Server のアンインストール後に Web アプリケーションを手動で配備を取り消します。

インストールディレクトリが空ではない場合、Web Server パッケージを再インストールできない (4925690)

Web Server をアンインストールしてから再インストールする場合、インストールディレクトリが空ではないと SUNWwbsvr の pkgadd が失敗します。

回避策

再インストールを実行する前に、インストールディレクトリを削除します。

たとえば、Web Server を /opt/SUNWwbsvr にインストールするよう選択する場合は、次のように入力します。

```
# rm -rf /opt/SUNWwbsvr
```

「現在の作業ディレクトリを判別できない」 ことによりアンインストールが失敗することがある (4930640)

回避策

アンインストールを開始する前に、/var/sadm/prod/entsys のアンインストーラディレクトリを変更してください。

アンインストールパネルに必要な機能がない (4907964)

インストールパネルとアンインストールパネルには、レイアウトや機能にいくつかの違いがあります。たとえば、インストールパネルでコンポーネントを選択すると、すべてのサブコンポーネントが自動的に選択されています。しかし、アンインストールパネルでコンポーネントを選択すると、サブコンポーネントは自動的に選択されません。

回避策
なし

インストール中に失敗したコンポーネントがあると、アンインストールで例外がスローされる

回避策
インストールの中間シーケンスが失敗したためにアンインストールする場合は、すべてのパッケージを手動で削除し、製品レジストリを消去する必要があります。その後、失敗したインストールシーケンスの一環として、インストールされた残りの製品のすべてを破棄することができます。

サイレントモードでインストールを実行した場合の、Directory Server のアンインストールに関する問題 (4922375)

インストール中に何も入力しなかった場合でも、アンインストーラは設定の入力を要求します。

回避策
このフィールドに任意の値を入力して、アンインストールを続行します。

Solaris OS x86 からアンインストールした後も Web Server プロセスが残る (4933968)

回避策
Web Server をアンインストールする前に、すべての Web Server プロセスを停止します。

IBM Web Sphere に配備されていた Identity Server のアンインストールが不完全である (4926383)

アンインストールを実行した後、IBM Web Sphere Application Server のクラスパスに Identity Server の jar ファイルパスが残ります。また、Identity Server の web-apps ディレクトリも残ります。

回避策
同じコンテナに再インストールする前に、残っているディレクトリとファイルパスを手動で削除します。

Java Enterprise System のアンインストールですべてのパッケージが削除されない (4941170)

最後に残っている Java Enterprise System のコンポーネント製品をアンインストールした後、システムに次のパッケージが残っている場合があります。

```
SUNWasvc
SUNWcjafo
SUNWcjmailo
SUNWebnfs

SUNWhjafo
SUNWhjmailo
SUNWjjafo
```

```
SUNWjjmailo  
SUNWkjafo  
SUNWkjmailo  
SUNWldk  
SUNWprd  
SUNWsas1  
SUNWtlsu  
SUNWiqcko  
SUNWiqctw  
SUNWiqiko  
SUNWiqitw  
SUNWjato  
SUNWktse
```

回避策

これらのパッケージの多くは、システムのほかの部分で使用される可能性のある共有コンポーネントです。システムのほかの部分でこれらのパッケージが使用されていないことが確かな場合以外は、これらのパッケージを手動で削除することはお勧めできません。

次のパッケージは **Java Enterprise System** コンポーネント製品に関連するもので、対応するコンポーネント製品がすでに削除されていることが確かであれば、`pkgrm` を使って削除することもできます。

SUNWasvc - Sun ONE 管理サーバーパッケージ

SUNWiq* - Message Queue 言語パッケージ

コンポーネント製品の互換性

コンポーネント製品の依存性のマトリックスを次に示します。

表 8 コンポーネント製品依存性マトリックス

コンポーネント製品	コンポーネント製品または共有コンポーネント
Sun ONE Application Server 7 Update 1	Sun ONE Message Queue 3.0.1 SP2; 共有コンポーネント
Sun ONE Calendar Server 6.0	Sun ONE Directory Server 5.2; 共有コンポーネント
Sun ONE Directory Server 5.2	共有コンポーネント
Sun ONE Directory Proxy Server 5.2	共有コンポーネント
Sun ONE Instant Messaging 6.1	Sun ONE Directory Server 5.2; Sun ONE Web Server 6.1; 共有コンポーネント
Sun ONE Messaging Server 6.0	Sun ONE Directory Server 5.2; Sun ONE Web Server 6.1; 共有コンポーネント スキーマ 2 を使用する場合、Directory Server と共に Identity Server をインストールする必要があります
Sun ONE Message Queue 3.0.1 SP2	共有コンポーネント
Sun ONE Identity Server 6.1	Sun ONE Web Server 6.1; Sun ONE Application Server 7 Update 1; Sun ONE Directory Server 5.2; 共有コンポーネント
Sun ONE Portal Server 6.2; Sun ONE Portal Server 6.2 SRA	Sun ONE Web Server 6.1; Sun ONE Identity Server 6.1; Sun ONE Application Server 7 Update 1; Sun ONE Directory Server 5.2; 共有コンポーネント
Sun ONE Web Server 6.1	共有コンポーネント

Netscape セキュリティサービス 3.3.5 および 3.3.4 のサポート

Java Enterprise System には、2つのバージョンの Netscape セキュリティライブラリが組み込まれています。Directory Server、Directory Proxy、および管理サーバーは、`/usr/lib/mps/` の下にインストールされているライブラリのバージョンに依存し、これらのライブラリに依存するその他のすべてのコンポーネント製品は、`/usr/lib/mps/secv1/` の下にあるより新しいバージョンに依存します。

マニュアルの記述の訂正と追加事項

Sun Cluster のマニュアルの場所

Sun Cluster のマニュアルは、Java Enterprise System Accessory CD Volume 3 と docs.sun.com で入手できます。Sun Cluster 3.1 のマニュアル一式については、<http://docs.sun.com/prod/entsys.03q4> を参照してください。

「インストーラのヘルプ」画面に誤った情報が表示される (4935895/4944849)

「インストーラのヘルプ」画面の一部にコンポーネント製品の設定についての正しくない情報が表示されますが、これは無視してください。DNS 用語の使い方に不統一があるためです。

インストールガイドの「情報の収集」に、正しい情報が記載されています。インストール中に Java Enterprise System コンポーネント製品を設定する際の参考に、この章を参照してください。

テキストベース (CLI) モードでのアンインストール

『Java Enterprise System インストールガイド』の第 10 章「ソフトウェアのアンインストール」の「テキストベースのインタフェースを使用したアンインストール」の節では、アンインストールするコンポーネント製品の選択と選択解除の方法について十分に説明していません。コンポーネント製品の選択と選択解除については、次のトピックを参照してください。「[テキストベース \(CLI\) モードのアンインストーラで、複数のコンポーネント製品のアンインストールが混同する \(4958324\)](#)」を参照してください。

問題の報告とフィードバックの方法

Java Enterprise System で問題が発生した場合は、次のいずれかの方法でご購入先のカスタマサポートに連絡してください。

- 次のアドレスにある、ご購入先のソフトウェアサポートサービス
<http://www.sun.com/service/sunone/software>
このサイトには、ナレッジベース、オンラインサポートセンター、および ProductTracker へのリンクと、メンテナンスプログラムおよびサポート連絡番号へのリンクがあります。
- メンテナンス契約に関連付けられている電話番号

最善の問題解決のため、サポートに連絡する際は次の情報をご用意ください。

- 問題の説明。問題が発生する状況や、その問題が操作に及ぼす影響など
- マシン機種、OS のバージョン、および製品のバージョン。問題に影響を及ぼしている可能性のあるパッチその他のソフトウェアなど
- 問題を再現するための詳細な手順の説明
- エラーログまたはコアダンプ

コメントの送付方法

Sun では、マニュアル品質改善のため、ユーザーの皆様のご意見、ご提案をお待ちしています。フィードバックには、次の Web ページのフォームをご使用ください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback/>

該当の欄にマニュアルの正式タイトルと Part No. をご記入ください。Part No. は、マニュアルのタイトルページか先頭に記述されている、通常は 7 桁または 9 桁の番号です。たとえば、このリリースノート
の Part No. は 817-4235-10 です。タイトルは、『Sun Java Enterprise System 2003Q4 リリースノート』
です。

Sun が提供しているその他のリソース

次のインターネットアドレスには、Sun に関する役立つ情報が掲載されています。

- Sun Java Enterprise System およびコンポーネント製品のマニュアルとリリースノート
<http://docs.sun.com/prod/sunone?l=ja>
- Sun サポートフォーラム
<http://supportforum.sun.com/>
- Sun の上級者向けサービス
<http://www.sun.com/service/sunps/sunone>
- Sun のソフトウェア製品とサービス
<http://www.sun.com/software>
- Sun のソフトウェアサポートサービス
<http://www.sun.com/service/sunone/software>
- Sun のサポートおよびナレッジベース
<http://www.sun.com/service/support/software>
- Sun のサポートおよびトレーニングサービス
<http://www.sun.com/supporttraining>
- Sun のコンサルティングおよび上級者向けサービス
<http://www.sun.com/service/sunps/sunone>
- Sun の開発者向け情報
<http://sunonedev.sun.com>
- Sun の開発者向けサポートサービス
<http://www.sun.com/developers/support>
- Sun ソフトウェアのトレーニング
<http://suned.sun.com/index.html>
- Sun のソフトウェアデータシート
<http://wwws.sun.com/software>

Copyright © 2003 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. は、本書に記載されている製品に採用されている技術に関する知的所有権を有しています。特に、また無制限に、これらの知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されている 1 つまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国における 1 つまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

SUN PROPRIETARY/CONFIDENTIAL.

U.S. Government Rights - Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard

Sun が提供しているその他のリソース

license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

Use is subject to license terms.

本製品には、第三者によって開発された製品を含むものがあります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。

Sun、Sun Microsystems、Sun ロゴ、Java、および Solaris は、米国その他の国における Sun Microsystems, Inc. の商標または商標登録です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。